

家計管理・生活設計のツボ

第1回

新社会人の 家計管理

学生生活を終えて社会人になる、結婚して家庭を持つ、あるいは、リタイアして第二の人生を歩む…。人生に訪れるさまざまなイベントは、家計管理や生活設計を見直すチャンスでもあります。このコーナーでは、それぞれのライフステージで知っておきたいお金にまつわる情報やノウハウをお伝えしていきます。今回は、春から新社会人となった皆さんと、「給与明細の見方」や「貯蓄のコツ」について考えます。



ツボ1 「給与明細」には、総支給額以外にもさまざまな情報が記載されている



ツボ2 上手に「貯蓄」するためには、はっきりした「目標」を持つことが大切



ツボ3 「自動積立」を利用すると、無理なく確実に貯蓄できる

給与明細が 教えてくれること

総支給額と手取り額が
違うのはなぜ？

この春から新社会人となった方々も、すでに何度目かの給料が支給されたことと思います。給料日は、誰しもウキウキとした気分になるものですが、「給与明細」には目を通さず、銀行口座の残高を確認するだけで終わらせている人も少なくないのではないのでしょうか。

「給与明細」には、月々の支給総額だけでなく、手当や控除の額、出勤の状況など、さまざまな情報が記載されています。総支給額より実際の手取り額が少ない理由も、給与明細をチェックするとよく分かります。いつもよく確認せずには、まいこんだり、捨ててしまう人は、この機会に給与明細の見方を知っておきましょう。

知っておきたい3つの重要項目

会社によって給与明細の書式は異なりますが、通常記載されているのが、①勤怠、②支給、③控除の3項目です。さらに、「その他」項目として年末調整などの一時的な情報が記載される場合もあります。

①勤怠

出勤、欠勤、遅刻早退や残業時間などの状況が記載されている項目です。これらの情報から給与が計算されるので、数字が合っているか確認しておきましょう。有給休暇の残り日数が記載されている場合もあります。

②支給

大きく「基本給」と「各種手当」に分かれています。

「基本給」は、年齢、勤続年数、能力、職務内容など従業員の属性や仕事の内容に応じて定額で支払われるもので、退職金を計算する際の基準とする会社も多くみられます。「各種手当」には、超過勤務に対する時間外手当、役職手当、資格手当、通勤手当、家族手当などがあります。

③控除

支給額から天引きされる項目で、その大半は税金と「社会保険」です。所得税は所得額に応じて国に納める税金です。毎月の給与から差し引かれる金額は概算のため、12月に1年間の所得額や所得控除額が決定した後、年末調整で精算されます。

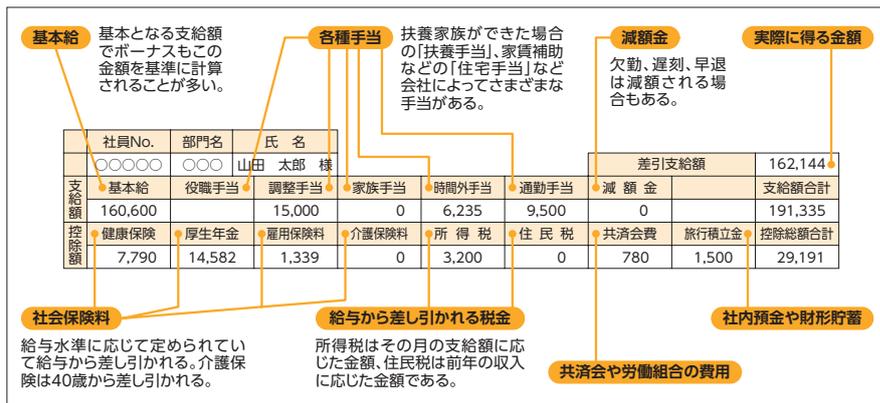
住民税は前年の所得によって金額が決まるので、前年の所得がない新社会人の場合は天引きされません(二年目から天引きされます)。

社会保険には、厚生年金保険、雇用保険、健康保険(公務員は共済)などがあり、決して少ない金額が天引きされていますが、それぞれいざというときにあなたの生活をサポートしてくれます。たとえば厚生年金保険は、老後の生活を支援すると同時に、ケガや病気で障害が生じたときにも役立ちます。きちんと内容を把握しておきましょう。

ほかに、給与から天引きで貯蓄できる財形貯蓄や、社員旅行の積立金や労働組合費など、会社独自の天引き項目があります。

「給与明細」にはさまざまな情報が載っていることが分かったと思います。手取り額を確認するだけでなく、天引きされたお金が何に使われているのか、社会保険がどのような仕組みになっているのかなどを知ることが、お金と賢くつき合う第一歩。次のお給料日には、ぜひ、給与明細の中身をじっくりと確認してみましょう。

■給与明細を読む



新社会人の「貯蓄のコツ」

「二人前」になることは、お金の管理もできるようになること

仕事を持つことによって「二人前の大人」へと歩み始めた新社会人。一人前になるといふことは、経済的にも自立するということが、仕事を覚えるだけでなく、「きちんとお金を管理して、自分の収入

の範囲内で生活しながら、夢の実現のための準備をする」のも、非常に重要なことです。

独身のうちは、「稼いだお金はすべて自分の自由になるお金」という気持ちで先に立って、無駄遣いをしたり、毎月お給料を使い果たしてしまうという人もいそうですが、結婚したり、子どもを育てたり、家を建てたりと、これからの長い人生に起こるイベントもすべて自分のお金でまかなっていかねければなりません。ぜひ早いうちに、お金との上手なつき合い方や賢い貯蓄法を身につけておきましょう。

大切なのは「目的」を持つこと

さて貯蓄しなければ、と頭で分かっていても、お給料を使いすぎて「今月は貯蓄に回せないな」となったり、ちよつと貯まるとつい使ってしまったたり、「なかなか貯められない」という人も多いのではないのでしょうか。

「なぜ、貯蓄をするのか？」その目的がはっきりしていないと、このような状況になりがちのようです。

貯蓄の目的はどのようなもので

も構いません。20代のうちに結婚したいから、30歳までに独立開業したいからといったライフイベントに備える目的はもちろん、2年に1度は海外旅行をしたいといったレジャーの計画でもよいのです。はつきりとした目的を持つことによって、無駄遣いへの誘惑が断ち切られ、貯蓄へのモチベーションが上がるはず。

最初の目標は小さくても構いません。目標額を達成して目的がかなえば、次なる目標に向けての貯蓄も頑張れるようになるでしょう。

無理なく貯められる自動積立

もう一つ、上手な貯蓄のコツとしてあげられるのは、最初に貯蓄額を差し引いて、残ったお金で生活するように習慣づけることです。会社に「財形貯蓄制度」がある場合には、その利用を考えてみましょう。

「財形貯蓄制度」とは、会社と提携している金融機関に、給与やボーナスからの天引きでお金を積み立てていく制度です。

一般に、社会人の貯蓄の目安は手取り額の1〜2割といわれています。仮に手取りの1割を毎月貯

■自動積立商品の例

商品等	特徴
財形貯蓄	給与やボーナスからの天引きで積み立てる。1年以上積立て、50万円以上の残高があれば、住宅購入時に財形住宅融資を受けられる。財形住宅、財形年金は一定条件を満たせば、利息は非課税となる。
自動積立定期預金	普通預金から自動的に・定期的に指定した金額を定期預金にシフトして積立てる。
投資信託自動積立	普通預金から自動的に・定期的に指定した金額を引き落とし、指定した投資信託を購入する。

金していれば、10カ月で月収分の貯蓄ができる計算になります。30歳くらいになると、結婚資金や住宅購入の頭金など、さまざまな用途に使えるくらいの貯えができるはず。

おすすめ自動積立商品はほかにもありますので、左記の表を参考にしてみてください。